

## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 連携・交流事業 1

#### 『源氏物語』紫の上の和歌と「祈り」～自分らしい生き方とは～

主 催：岐阜市女性センター

開催日時：令和3年10月16日（土）10：30～12：00

会 場：岐阜市ハートフルスクエアーG 中研修室

受講者数：約30名

本講座では『源氏物語』中に詠まれている紫の上の和歌の表現方法を探り、生涯におけるさまざまな局面に表れた心の動きを読み解いた。紫の上の歌の詠みぶりを人生終盤に語られる「祈り」に通じるものにとらえ、そこから現代人が「自分らしい生き方」を探るためのヒントを提案した。

物語中、紫の上は生涯に21首の和歌を詠んでいる。その特徴のひとつとして、先行研究では、他のほとんどの女君が和歌に詠んでいる「憂し（辛い）」という語を、紫の上は一度も用いない点が指摘される。実際の紫の上の人生は、光源氏の庇護のもとで生きるしかない女性の苦悩に満ちたものであったにもかかわらず、その歌では常に冷静に、淡々と自身の置かれた状況が綴られる。正妻になれず社会的に妻としての保証が与えられない苦悩を「辛い」と言う代わりに、自身の立場を自然に託して表現し、そこから気づきを得ていく紫の上の和歌には、常に自らを客観的に見つめる視点が存在する。こうした紫の上の和歌を、また先行研究でその意味が探求されている「祈り」へとつながる作業にとらえた。

「若菜下」巻で、女三の宮が光源氏の正妻となった後の紫の上は、

心にたへぬもの嘆かしさのみうち添ふや、さはみづからの祈りなりける

（私自身の心にととても耐えきれない、何か嘆かわしいことばかりが離れずにいるのは、

それが自分自身の祈りになっているのでした）（小学館『新編日本古典文学全集』より）

と述べる。神仏に幸を請い願う「祈り」は苦しみや悩みと切り離せないものであり、苦悩こそが人生の支えであるという気づきは、和歌の中で自らを客観視し続けた営みから生まれたものといえる。紫の上の歌の軌跡は「祈り」を他者への共感や愛に発展させた「自分らしい」人生の軌跡でもある。以上の観点から、乱世を生きる現代の私たちが「自分らしい生き方」を模索する上でも、自らを客観的にみつめ、気づきを高める姿勢の重要性を示した。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 連携・交流事業2

#### 本巢ジビエ（鹿肉）と徳山唐辛子を使ったメニュー考案

主 催：本巢市×mintoup

開催日時：令和3年10月1日（金）～11月30日（火）（お店でのメニュー提供期間）

会 場：本巢市を始め、近隣の飲食店

食物栄養学科では、本巢市から、4回目を迎えたグルメスタンプラリー「シビれるグルメDX」へのメニュー開発の依頼を受け、本学科の3名の学生が挑戦した。具体的には、本巢ジビエ（鹿肉）と幻の徳山唐辛子を使ったメニューの考案で、各自、試行錯誤の末、メニューを完成させ、作品を応募した。選考の結果、応募した3作品は見事、当選し、さらに地元の飲食店の協力を得て、オリジナルメニューが完成し、お店のメニューに加わった（下の写真）。なお、そのうち1作品「ジビエれんこんはさみ揚げ定食」（下の右端の写真）は、その後の最終審査で、上位入賞メニューの5位に入り、輝かしい成績を収めた。

メニュー開発に挑戦した学生たちの感想であるが、完成したオリジナルメニューが実際にお店のメニューに加わることへの達成感と喜びはひとしおであったが、商品開発の難しさも併せて知ったとのことである。

この貴重な体験を活かして、人間的にさらに成長していったらいい。

The image displays three menu cards from participating restaurants. Each card includes a photo of the dish, a title, a description, and contact information.

- art:heat atelier felix (アトリエフェリス)**
  - ジビエパイ**: 店内飲食 1,000円、テイクアウト 500円。鹿肉と野菜の旨みを生かしたジビエパイ。鹿肉の旨みを生かしたソース。鹿肉の旨みを生かしたソース。鹿肉の旨みを生かしたソース。
  - サクサクしたパイ生地の鹿のデザインが可愛いセットメニュー**
- イタリアンの風 うれし野**
  - チーズinスパイスサーカス**: 店内飲食 1,800円、テイクアウト 1,800円。イタリアン本場のチキンステーキ。イタリアン本場のチキンステーキ。イタリアン本場のチキンステーキ。
  - スパイス香る、ボリューム満点のメインディッシュ**
- 日本料理 昇平楼**
  - ジビエれんこんはさみ揚げ定食**: 店内飲食 1,000円、テイクアウト 1,000円。ジビエれんこんはさみ揚げ。ジビエれんこんはさみ揚げ。ジビエれんこんはさみ揚げ。
  - 素材の旨味を引きだす老舗の確かな味に満足**

## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 連携・交流事業3

#### 地域交流事業 柳ヶ瀬ハンドメイドコンテストへの参加

担当者：生活デザイン学科 教授 福村 愛美、准教授 中谷 友机子  
助教 柴田 佐和子、准教授 太田 幸一

主催：柳ヶ瀬通一丁目商店街振興組合

後援：岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会

岐阜県教育委員会

岐阜市教育委員会

岐阜商工会議所

開催日時：令和3年9月13日（月）より応募開始（10月31日（日）応募〆切）  
令和3年11月21日（日）審査結果発表会

会場：柳ヶ瀬通一丁目特設ステージ

参加者数：生活デザイン学科 FD 専修1年生 8名

「柳ヶ瀬ハンドメイドコンテスト」は、近年ハンドメイドに力を入れている柳ヶ瀬商店街を元気づけようと企画されたコンテストである。今年は第2回目である。

「スカート部門」と「トップス部門」と「編み物 or 刺繍部門」で構成されており、本学は「スカート部門」と「編み物 or 刺繍部門」に取り組み、リメイクやオリジナル作品の制作を行い、学生8名が参加した。

審査の結果、FD 専修1年生の松浦萌さんが『スカート部門審査員特別賞』を受賞した。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 連携・交流事業4

#### 岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科

#### 2021 年度活動展 『生活のデザイン展』

担 当 者：生活デザイン学科 助教 柴田 佐和子

開催日時：令和4年2月17日（木）～令和4年3月17日（木）

会 場：モレラ岐阜

学科の特色や近年の様々な取り組みを地域に発信するため、令和3年度の卒業研究・制作の選抜展示（ファッション／建築・インテリア／ヴィジュアル分野の作品計11点）および、地域貢献事業や産学連携事業などの学外プロジェクト活動の成果をパネル形式で展示した。今年度初の取り組みとして、大型商業施設での展示を実施した。幅広い年齢層が立ち寄るショッピングモールに展示したことで、より多くの方に学科の活動を知っていただく機会となった。また、展示期間中の2月26日には、モレラ岐阜のイベント事業の一環として進学ガイダンスおよびワークショップを実施し、多くの方に参加していただくことができた。なお、本事業の様子が中日新聞で取り上げられた。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 連携・交流事業5

#### 地域活性化イベント「ひつじサミット in 尾州」

#### 関連事業『手織りでおしゃれなミニタペストリー 作り』

担当者：生活デザイン学科 助教 柴田 佐和子、教授 福村 愛美

主催：岐阜県毛織工業協同組合

開催日時：令和3年10月30日（土）10：00～11：30

会場：テキスタイルマテリアルセンター

受講者数：5組（約10名）

一宮市から羽島市にかけての羊毛の産地である尾州産地の地域活性化イベント「ひつじサミット in 尾州」の関連事業として、岐阜県毛織工業協同組合内にあるテキスタイルマテリアルセンターにおいて、手織りで作るミニタペストリー作りのワークショップを実施した。

親子を対象とした講座であったことから親子で協力し、さまざまな色の毛糸や羊毛フェルトを織り込み作品を制作した。初めて手織りを体験する受講者ばかりで色選びやデザインに悩む姿も見られたが、全員が時間内に完成することができた。





## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 連携・交流事業6

#### 羊サミット「せんい団地の渋ビルさんぽ」イベント

#### 一宮市ワークショップ開催「ニードルフエルトワークショップ」

担当者：生活デザイン学科

准教授 中谷友机子、准教授 太田幸一、名誉教授 村上真知子

中谷研究室 課題研究学生達 2年生6名

主催：せんい団地活性化委員会

開催日時：令和3年10月30日（土）1部 10時00～11時30分

2部 13時00～14時30分

会場：ササキセルム(株)本社ビル1階

受講者数：1部約20名

2部約15名

ウール生地産地「尾州」では、毎年、羊をテーマに工場見学やワークショップの開催、さらに、ウール関連ファッション商品のショッピングや美味しい飲食など、様々なコミュニケーションを通して、ウールの価値を高めていく活動「羊サミット尾州」を開催しています。そのイベントの一部として、本学が参加し「ニードルフエルトワークショップ」を開催させて頂きました。ウールの特徴を活かして、ニードルフエルト技法でオリジナルな柄を付着させ、壁掛けを制作させて頂きました。

参加者はとても素敵な壁掛けを制作されていました。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 連携・交流事業7

#### 柳ヶ瀬サンデービルディングマーケットへの参加

担 当 者：生活デザイン学科

准教授 中谷友机子、教授 福村愛美、准教授 太田幸一

助教 柴田佐和子

主 催：サンデービルディングマーケット実行委員会

開催日時：令和3年11月21日（日）10：00～16：00 頃迄

会 場：ぎふ・柳ヶ瀬商店街

受講者数：FD8名、VD2名、ID1名、教員4名

ぎふ・柳ヶ瀬商店街は、喫茶店や映画館、また、高島屋百貨店や専門店などが続くレトロな商店街です。現在も「ひと」「もの」「空間」が文化として根強く存続している「ライフスタイル商店街」といえます。サンデービルディングマーケットは、ぎふ・柳ヶ瀬商店街の活性化活動として定期的に行われています。本学は課題研究授業の一環として、学生が制作した作品（商品）を、マーケットで販売する目的として参加させて頂きました。この授業研修は、学生が作品（商品）を制作して、それに価格を付けて、マーケットで販売する、この過程を体験とともに学びを得る目的として参加しました。学生達は積極的に取り組んでいました。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 連携・交流事業 8

#### 宮浦晋哉氏のファッションセミナーへの参加

担 当 者：生活デザイン学科

准教授 中谷友机子、助教 柴田佐和子、名誉教授 村上眞知子

主 催：岐阜県毛織工業協同組合

開催日時：令和3年12月14日（火）13：30～15：00

会 場：岐阜毛織会館 会議室3階

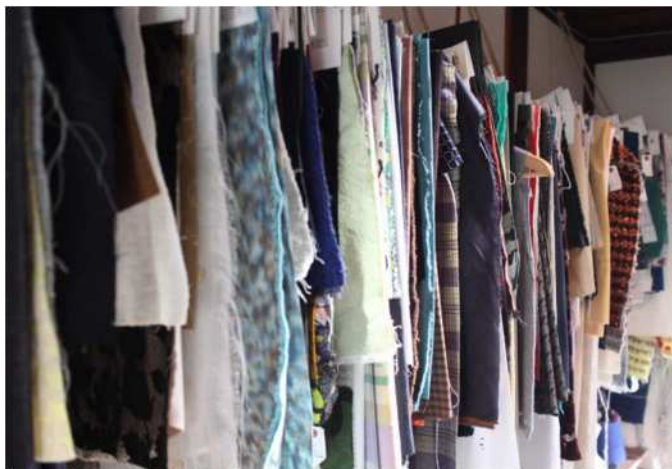
受講者数：全約50名

本学FD1年生8名、教員3名

「繊維産業をもっと良くしたい～日本の産地と若手デザイナーの架け橋～」をテーマに、講師の株式会社糸偏（セコリ壮、産地の学校）代表取締役 宮浦晋哉氏のセミナーを聴講しました。宮浦晋哉氏は、繊維産地とデザイナーや企業をつなぐファッションキュレーターとして活躍されています。

様々な産地の課題解決策を探究され、その問題点や今後の課題、さらにソリューション事業の設立活動などを御説明頂きました。

テキスタイル業界の後継者不足や産地の技能がまだ把握されていない現状を、次世代にどのように伝え発信していくのか、大きな課題が迫っています。発信を強化できる構造がいかにかに大切かを、産地に関わる一人一人が理解する必要があることを認識できました。学生達も深く認識する機会が出来たと考えます。





## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 連携・交流事業 9

#### イオンモール各務原マーケティング研修

担当者：生活デザイン学科 准教授 中谷友机子

主催：岐阜市立女子短期大学

(ファッションマーケティング授業、ファッションデザイン演習Ⅰ授業)

開催日時：令和4年1月6日(木) 13:00~18:00分頃迄

会場：イオンモール各務原内の店舗

受講者数：FD1年生8名

生活デザイン学科の専門教育科目「ファッションマーケティング」「ファッションデザイン演習Ⅰ」(木)の学外研修として、イオンモール各務原内店舗での調査・分析を実施しました。

ファッションマーケティング授業では、前半、2021年秋冬ファッション傾向のコンセプト・ターゲット・テイスト・シルエット等の分析を行ってきました。現在の2021年秋冬ファッション傾向、2022年春夏への流行志向・カラー分析・店舗構成など、実査で確認・認識を行いました。さらに、最終課題の調査マップ制作に役立てる事を目的とし調査・分析を行いました。

ファッションデザイン演習Ⅰ授業では、様々なテーマによるデザイン画を制作してきました。今回のマーケティング研修において、調査・分析の結果、ファッションの流行からデザインに落とし込むディテールやアイテム、テキスタイル、シルエットなどを把握し、最終課題のデザイン画制作に役立てる事を目的とし実施いたしました。

学生たちは真摯に調査・分析を行い、実査の大切さを実感していました。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 連携・交流事業 10

#### ヤマザキマザック美術館での鑑賞研修

担当者：生活デザイン学科 准教授 中谷友机子  
主催：岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科  
ファッションデザイン論授業 FD・ID 専修 1 年生参加  
開催日時：令和 4 年 1 月 8 日（土）14：00～18：00  
会場：ヤマザキマザック美術館  
受講者数：14 名（引率教員 1 名）

ヤマザキマザック美術館は「四季折々の情景」をテーマに、令和 3 年 10 月 29 日（金）から令和 4 年 2 月 27 日（日）まで開催されています。

「ファッションデザイン論」授業の学外研修として展示を鑑賞いたしました。

現代作家 9 名の作品と、美術館に所蔵されているアール・ヌーヴォーのガラスや家具とともに展示されている四季折々に広がる自然情景の再現を鑑賞しました。

ヤマザキマザック美術館は、アール・ヌーヴォーの代表的な作家であるエミール・ガレ（フランスの工芸家 1846 年 5 月 4 日—1904 年 9 月 23 日）をはじめとする様々なガラス工芸品、家具、棚や椅子、テーブル、暖炉などが展示されています。

19 世紀末から 20 世紀初頭にかけてヨーロッパを中心に開花した美術運動アール・ヌーヴォーは、現在でもファッションの基盤として存続しています。

学生たちは、教科書でのアール・ヌーヴォー作品とは別に、本物のエミール・ガレの作品や様々な絵画の作品を目の前にして、その技術の素晴らしさに感銘をしていました。また、今回は、15 時から 15 時 50 分の学芸員ガイドツアー（学芸員吉村有子氏ガイド、参加費無料）に参加し、15 時 50 分から 16 時 30 分の絵画音声ガイドによる自由研究、その他、各自の自由研究を行い、充実した美術館作品鑑賞になりました。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 連携・交流事業 1 1

#### 第 31 回ア・ミューズ岐阜

#### スチューデントプレビューショー(学生ファッションショー)への参加

担 当 者：生活デザイン学科

准教授 中谷友机子、助教 柴田佐和子

教授 福村愛美、 准教授 太田幸一

主 催：一般社団法人 岐阜ファッション産業連合会

ア・ミューズ岐阜委員会

後 援：岐阜県、岐阜市

開催日時：令和 4 年 3 月 2 日（水）10：00～12：00 リハーサル

17：00～18：30 本番

会 場：じゅうろくプラザ 2F

受講者数：FD1 年生 6 名、引率教員 4 名

ア・ミューズ岐阜は 31 回目を迎えます。新型コロナウイルス感染症の第六波が拡大し、まだ終息の先が見えない環境の中、ファッション業界や社会・市場は、とても不安定な状況が続いています。しかし、ファッションを通じて明るく元気な世の中にしたいという目的で開催されました。今回は、2021 年度ファッション専修卒業生の作品をファッション専修 1 年生が着用し、さらに、ドレスアップしたショー構成で出演させて頂きました。また、1 年生自身のオリジナル制作作品も披露させて頂きました。

今回のスチューデントプレビューショーの参加において、学生たちの若い活気あふれた作品の数々を発信させて頂き、学生たちも岐阜アパレル業界の活性化と商業活動に、とてもいい経験と貢献ができたと考えます。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 連携・交流事業 1 2

#### モレラ岐阜「モレランド 2021」SDGs ワークショップ 「古着を使ってコースターをつくろう！」

主 催：モレラ岐阜

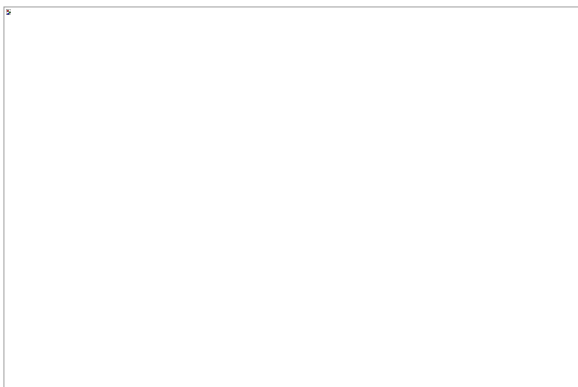
開催日時：令和 3 年 7 月 24 日（土）11：00～15：30

会 場：モレラ岐阜 1F ホワイトプラザ（岐阜県本巣市三橋 1100）

受講者数：約 10 名

「モレランド 2021」はモレラ岐阜が実施する地域貢献イベントで、「SDGs」についてワークショップの体験などを通じて SDGs に触れる「きっかけ」を提供するイベントである。今回協力依頼があり、材料学研究室の環境に関する取り組みを紹介することを通して、学科や専修、さらに本学の宣伝も兼ね、ワークショップを実施した。T シャツやブラウスなどの古着を元に裂き織の技法でコースターを作成するワークショップで、古着のリユースについて紹介した。まん延防止等重点措置が解除されたことを受け新型コロナウイルスの感染防止の対策をしっかりと行ったうえでワークショップを実施することとなった。

夏休み初めの土曜日としては比較して人通りは少ないものの、親子連れなどがブースを訪れ、コースター作成を体験していった。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 連携・交流事業 1 3

#### 地域交流事業 マザーズコレクションでの入選及び特別賞

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 中谷 友机子  
教 授 福村 愛美  
助 教 柴田 佐和子  
准教授 太田 幸一

主 催：一般社団法人岐阜ファッション産業連合会 岐阜マザーズコレクション  
コンテスト委員会

後 援：岐阜市

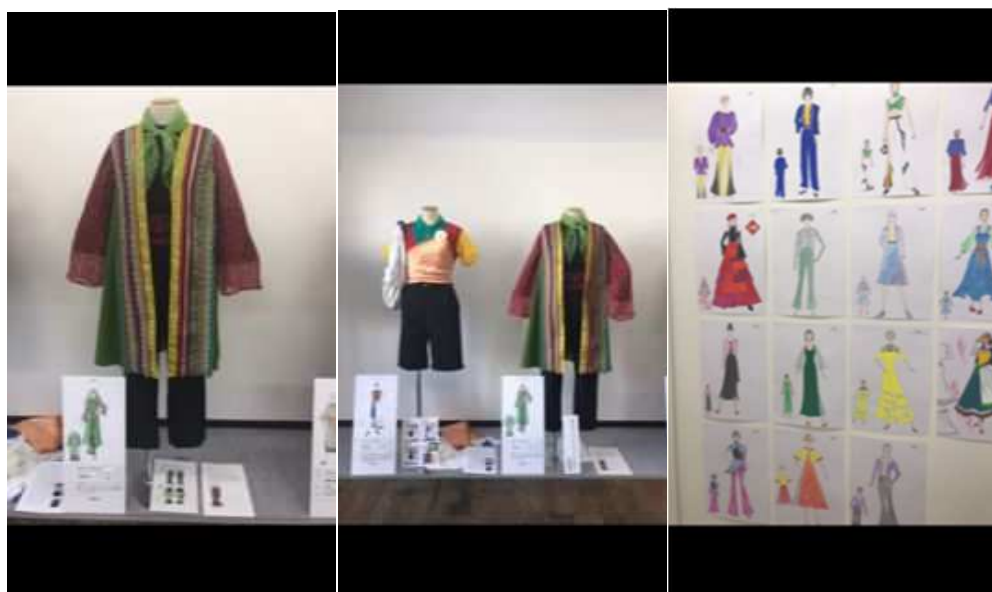
開催日時：令和3年6月7日（月）より応募開始（9月28日（火）応募〆切）  
令和3年12月5日（日）審査結果発表会

会 場：岐阜市長住町5-7-5

参加者数：生活デザイン学科FD専修2年生12名

第11回マザーズコレクションコンテストが今年開催された。ねんりんピック岐阜2021と同時開催でファッションショーの予定であったが、コロナ感染拡大でそれは中止となった。しかしマザーズコレクションコンテストは行われ、生活デザイン学科・ファッション専修2年生の学生12名が参加した。

審査の結果、FD専修2年生の河原葉月と西脇杏菜が入選し、下垣内あいさんが特別賞を受賞した。





## Ⅱ 連携・交流事業

### 2) 他大学交流事業

#### 他大学交流事業 1

#### 令和3年度 多職種メディカルケアチーム医療教育

(MMeCTE : Multidisciplinary Medical Care Team Education)

担当者：食物栄養学科 専任講師 山田紀子

主催：岐阜大学医学教育開発研究センター

開催日時：令和3年11月8日（月）9：00～12：00

会場：Web 開催

受講者数：食物栄養学科2年生42名

実際の医療現場では、チーム医療が必須であり、メディカルケアチーム（多職種連携チーム）をつくり、患者の治療やサポートを行っている。多職種メディカルケアチーム医療教育（MMeCTE : Multidisciplinary Medical Care Team Education）として、平成医療短期大学・岐阜薬科大学・岐阜大学・朝日大学・朝日大学歯科衛生士専門学校と本学の学生が、チーム医療を体験する共同授業に参加しました。昨年同様今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止に対応し、Webでの開催となりました。

医師、歯科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、視機能訓練士、薬剤師、歯科衛生士、栄養士をめざす学生で構成されるグループが編成され、課題（脳梗塞、糖尿病、高血圧を患う高齢の方の退院準備カンファレンス）に取り組みました。

今回の体験を通して、医療の中での栄養管理の必要性を確認することができ、専門分野を学ぶ学生との交流で、多職種の方の視点や考え方を知り、自分たちとは違った見方や考え方を知ることができます。また、医療の中での栄養管理の必要性を確認することができ、栄養士を目指す学生にとって、将来につながる経験となっています。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 2) 他大学交流事業

#### 他大学交流事業2 岐阜薬科大学との連携授業

担当者：食物栄養学科 准教授 山田紀子

主催：岐阜薬科大学 岐阜市立女子短期大学

開催日時：令和3年11月12日（金）13：00～14：30

会場：Web開催

受講者数：総合臨床薬学受講者

岐阜薬科大学との連携授業で、岐阜薬科大学「総合臨床薬学」の講義として「生活習慣病における食事療法の意義」についてWeb配信による講演を行いました。講演後の質疑応答では、学生から活発に質問がありました。岐阜薬科大学の先生より学生の興味を引く内容であったとの講評でした。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 2) 他大学交流事業

#### 他大学交流事業3

#### 岐阜大学応用生物科学部との連携教育～家畜飼育と衛生管理の実際～

主 催：岐阜大学応用生物科学部、岐阜市立女子短期大学

開催日時：令和3年11月12日（金）8：40～16：40

会 場：岐阜大学応用生物科学部附属家畜衛生地域連携教育センター（GeFAH）・  
岐阜フィールド科学教育研究センター

受講者数：食物栄養学科 2年生 42名

担 当 者：食物栄養学科 准教授 堀 光代 、 助手 渡邊優子

平成27年度から食物栄養学科の学生を対象として岐阜大学との連携教育を継続して行っている。昨年度はコロナ禍のため中止となったが、今年度は感染症対策を十分に行って実施することができた。ただ、今年度は鶏舎の見学ができなため、これまで継続してきた牛舎の見学、加工実習（バター作り）に加えて農場の見学を行うプログラムを組み、42名を3グループ（A, B, C）に分けて実施した。

当日学生はまず岐阜大学応用生物科学部附属家畜衛生地域連携教育センター（GeFAH）と岐阜フィールド科学教育研究センターを訪問した。岐阜大学の教員から「岐阜大学農場の概要」と「草からミルクができるまで」の講義を受講し、続けて岐阜県中央家畜保健衛生所の職員から防護服の着用についての説明を受けた後、実際の着用方法を学んだ。

次に全員が講義室からフィールドセンターに移動し、グループ別のプログラムを実施した。Aグループは、防護服を着用し、牛舎の見学を行った。乳牛の飼育方法と衛生管理等を担当者から聞き、実際に牛と触れ合う時間を楽しんだ。Bグループは、加工実習室に移動し、白衣などの準備を整えた後、担当者から説明を受け、各自持参したペットボトルを用いてクリームをバターにする工程を体験した。Cグループは、農場の見学を行い、担当者からスマート農業などの説明を受けた。学生はこれらの3つのプログラムを、時間を区切りながら行った。

学生からは「これまで何気なく使っていた牛乳と牛の管理について理解できた。」「命の大切さを改めて知ることができ、感謝する気持ちを持つことができた。」などの感想が聞かれた。栄養士養成校に在籍する学生にとって動物や野菜の生産、管理、安全性について理解し、「食に対する安全」を再認識するとともに、知識を深める貴重な体験となった。

実施に向けてお世話になった関係各位の皆様に感謝を申し上げます。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 2) 他大学交流事業

#### 他大学交流事業4

#### オンライン海外セミナー『イノベーションアカデミーによるフライブルク環境先進事例視察』

担当者：生活デザイン学科 助教 柴田 佐和子、准教授 畑中 久美子

開催日時：令和4年2月10日（木）、令和4年2月18日（金） 16:00～17:30

会場：オンライン

接続先：フライブルグ（ドイツ）

参加人数：58名（2月10日34名、2月18日24名）

コロナ禍において、実際に海外へ渡航する形式での海外研修が困難であることから、本年度は初めての試みとして、オンライン形式での海外研修を実施した。環境先進都市であるドイツ・フライブルグの非営利団体「イノベーションアカデミー」とリモート接続し、現地の環境に対する取り組みや都市の様子などをリアルタイムに聞くことができた。

主なセミナーの内容は下記の通りである。

- ・グリーンシティに対する期待度の調査
- ・イントロダクション：サステイナブルシティとしてのフライブルグ過去、現在、未来
- ・エコフレンドリーホテルに対する期待度の調査について
- ・Hotel Victoria の取り組み（ホテルオーナーのビデオインタビュー）
- ・クイズ





## Ⅱ 連携・交流事業

### 2) 他大学交流事業

#### 他大学交流事業 6

#### 高校生のための街なかオープンカレッジ 2021 in 関

担 当 者：岐阜大学地域科学部 教授 富樫幸一、助教 甲斐智大  
生活デザイン学科 講師 臼井直之  
生活デザイン学科 建築・インテリア専修 2年  
酒井杏樹、高井沙野花、加藤咲、瀧田野乃香、河合優実

主 催：岐阜市立女子短期大学・岐阜大学地域科学部（連携事業）

開催日時：令和3年8月7日（土）10：00～15：00

会 場：関市役所など

受講者数：約 13 名

高校生が大学での学びを体験しながら、地域との関わり方を考えることを目的としたオープンカレッジを開催した。

午前の部では、関市善光寺住職、関市市民活動センター職員、大学教員によるクロストークを行なった。午後からは、関市の中心市街地の各所をめぐり、その後ワークショップ形式で気づいたことを共有した。ワークショップに際しては、建築・インテリア専修2年生の5人がファシリテーターを行った。

高校生は、この体験を通して関市のことを知り、また地域や大学での学びに対しての関心を深めていた。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 2) 他大学交流事業

#### 他大学交流事業 7

#### 高校生のための街なかオープンカレッジ 2021 in 東美濃

担当者：生活デザイン学科 講師 加藤祥子

主催：岐阜市立女子短期大学・岐阜大学地域科学部（連携事業）

開催日時：令和3年10月17日（日）10：30～15：00

会場：岩村コミュニティセンター

受講者数：約15名

高校生が地域をフィールドに大学での多彩な学び方を体験できるオープンカレッジを開催した。

午前の部では、担当者から「環境共生に向けたストック形成ー古い建物を利活用できる仕組みを作って、環境にやさしい社会へ」の講義を行い、さらに城下町ホットいわむら会長の佐々木氏による「まちづくり計画～誇れる町、賑わう町、潤える町へ～」についての講義を行った。その後、岐阜大学学生による大学での学びについての紹介や岐阜大学教員による高校と大学の学びの違いについての話があった。

午後の部では、岩村の城下町（重要伝統的建造物群保存地区）の街歩きを行い、コミュニティセンターで高校生たちはグループに分かれて意見を出し合った。

高校生は、体験を通して、地域や大学での学びに対する関心を深めていた。

## II 連携・交流事業

### 3) 産官学連携事業

#### 産官学連携事業 1

### 岐阜市女性センター発行『ぎふし男女共同参画情報誌「織」19号』の企画編集

担当者：国際文化学科 教授 川上 新二

主催：岐阜市女性センター

時期：令和3年7月14日（水）～ 令和4年2月2日（水）

参加者：国際文化学科2年生4名

岐阜市女性センターが発行する、ぎふし男女共同参画情報誌「織」19号の企画・編集を行った。テーマを「自分らしく働く」として、自動車整備士として働く女性、医師として働く女性の2名にインタビューして作成した。「織」19号は令和4年3月に発行された。

**自分らしく働く!**

**男性が多い職種で働く**  
2020年、岐阜市で自動車整備士、エンジン修理専門士を志望する女性、西村さん、西村さん、西村さん、西村さんとして活躍。  
●エピソード： 西村さんは、自動車整備士という男性が多い職種で働くことに決意した。

**ワークライフバランスを大切にしながら働く**  
岐阜市女性センターと協力してワークライフバランスを大切にしながら働く。  
●エピソード： 西村さんは、ワークライフバランスを大切にしながら働くことに決意した。

**この職業に就こうと思ったきっかけは？ また、家族の反応は？**  
西村さん： 自分が好きな仕事で、将来の夢を叶えたいと思った。家族は最初は反対したが、今は応援している。

**女性ならではの強みは何か？**  
西村さん： 細やかな観察力と、丁寧なコミュニケーション能力。男性にはない強みがある。

**職業における性別の割合は？**  
西村さん： 自動車整備士は男性が約90%、医師は男女ほぼ半々です。

**女性として仕事をすることで、社会的な役割をどのように果たしていますか？**  
西村さん： 女性として働くことで、社会の多様性を広げ、女性の活躍の場を広げたいと思っています。

**ある日のスケジュール**  
西村さん（医師）のスケジュール： 7:00 起床、8:00 通勤、9:00 勤務開始、12:00 昼食、13:00 勤務継続、17:00 勤務終了、18:00 帰宅、19:00 夕食、20:00 読書、22:00 就寝。  
西村さん（自動車整備士）のスケジュール： 7:00 起床、8:00 通勤、9:00 勤務開始、12:00 昼食、13:00 勤務継続、17:00 勤務終了、18:00 帰宅、19:00 夕食、20:00 読書、22:00 就寝。

**これから就職する学生へのメッセージ**  
自分らしく働くことが大切。自分の強みを活かして、社会に貢献しよう。







## Ⅱ 連携・交流事業

### 3) 産官学連携事業

#### 産官学連携事業4 令和3年度 翔工房への参加

担 当 者：生活デザイン学科 助教 柴田佐和子、教授 福村 愛美、  
准教授 中谷 友机子、准教授 太田 幸一、

主 催：(公財)一宮地場産業ファッションデザインセンター

開催日時：令和3年5月31日(月)～ 令4年2月18日(金)

会 場：一宮地場産業ファッションデザインセンター 他 尾州産地

参加者数：1名

翔工房は、愛知県一宮市にある公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンターが主催する人材育成事業のひとつで、通算13回目を迎える中で、本学の参加は10回目である。今年度は、コロナ禍の中、書類審査(7月上旬)の結果、14名が選出され事業に参加した。本学では、生活デザイン学科ファッション専修2年の学生3人が応募しその中の1人が選出され、中津杏菜が参加することに決まった。数回の合同ミーティング、各々の匠講師と受講生のテキスタイルに関する打合せを経て素材製作がされ、学生による衣装製作が行われた。最終作品は、令和4年2月17日～18日に開催された、尾州テキスタイルの総合展「THE 尾州」での展示と、動画が公開された。「稲葉の城」のテーマで参加した学生は、表と裏が異なる色で色合いも瓦のイメージに合わせて様々な色を使ったテキスタイルを提案し、壁面のざらざらとした感じを表現した。翔工房の匠講師は、森田史郎氏である。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 3) 産官学連携事業

#### 産官学連携事業5 令和3年度 ものづくりマイスターの実技指導の講座「婦人服の縫製」と「和裁」への参加

担当者：生活デザイン学科 教授 福村 愛美、助教 柴田佐和子、  
准教授 太田 幸一、准教授 中谷 友机子  
講師 臼井 直之

主催：岐阜県職業能力開発協会

開催日時：令和4年1月19日（水）～ 令和4年2月17日（木）

会場：岐阜市立女子短期大学

参加者数：18名

岐阜県職業能力開発協会主催の技能検定に向けた、ものづくりマイスターの実技指導の講座で、生活デザイン学科 FD 専修の1年生8人が「婦人服の縫製」を三石寿美講師に本学で指導していただいた。

学生も熱心に取り組み完成することができ、縫製の技術も上がってとても有意義な講習であった。学生は作品が完成して達成感を感じており、もっと経験値を上げるためにさらに縫製の技術を磨きたいと思った。

FD 専修2年生は和裁の講座に6人参加した。講師は広瀬峰代先生に指導していただいた。5回という短い期間にもかかわらず全員が作り上げることが出来た。全部手縫いで完成させるには時間が少し厳しかったが、指導の先生が熱心に時間も気にせず楽しく教えて頂き、学生も充実した時間を過ごせたと思う。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 3) 産官学連携事業

#### 産官学連携事業6

#### 羽島市、テキスタイルマテリアルセンター（岐阜県毛織工業協同組合）、岐阜市立女子短期大学の3者産学連携・人材育成研修

担当者：生活デザイン学科 准教授 中谷友机子、准教授 太田幸一  
教授 福村愛美、 助教 柴田佐和子

主催：羽島市、テキスタイルマテリアルセンター、生活デザイン学科 FD 専修

開催日時：令和3年11月11日（木）12：30～17：30 分頃迄

会場：①葛利毛織株式会社  
②艶清興業株式会社

受講者数：学生20名 1年生・2年生合同（教員引率4名）

生活デザイン学科の専門教育科目である「ファッションビジネス論」「服飾文化史」を受講しているFD1年生と、「アパレルマーチャンダイジング」を受講している2年生の学外研修として、①葛利毛織株式会社、②艶清興業株式会社の2工場に決定し、1年生2年生合同の工場研修を実施しました。

##### ①葛利毛織株式会社について

尾州産地の繊維産業界で、創業100年として現在もなお、上質なテキスタイルにこだわり、その高度な製法と技術・技法によって、丁寧につくりこまれた生地製作の工程を見学させて頂きました。上質な生地製作ができる「ションヘル織機」を主流に製作されているプロセスや、製作された様々な上質素材を実際に触らせて頂き、学生たちはアパレル制作においてテキスタイルの重要性を実感していました。

##### ②艶清興業株式会社について

アパレル産業界は、織物をさらに風合い良く、着心地良く、デザインやアイテムの関係性において、常に素材研究開発をしています。艶清興業株式会社は、テキスタイルの特徴を考慮しながら、染色整理加工の技術によって素材の向上に努めている工場です。様々な染色整理加工技術の工程を詳細に説明して頂きました。

日頃、学生たちが何気なく着ているアパレル素材が、染色整理加工の技術で、適切な風合いや着心地になっている現実を、学生たちは実感し理解していました。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 3) 産官学連携事業

#### 産官学連携事業 7

#### あんしんつながりステーション岐阜駅東の壁面装飾

担当者：生活デザイン学科 准教授 小川 直茂

実施期間：令和3年9月27日（月）～12月20日（月）

参加者数：生活デザイン学科 1年生 7名

生活デザイン学科・グラフィックデザイン研究室で、岐阜市市民協働推進部および岐阜市女性センターとの連携事業として、コロナ禍によって困難や不安に直面した女性への支援活動を展開する「あんしんつながりステーション」の壁面装飾プロジェクトに取り組んだ。

より多くの女性の方々に気軽にご来館いただき、安心して過ごしていただくことをめざして、学生7名の協働体制で空間演出のコンセプトや表現手法を考え、提案へとつなげた。「互いに繋がり、支え合う」というメッセージを込めた唐草モチーフの壁画制作や、来館者を温かく出迎えるフェルトフラワーの装飾設置を実施した。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 3) 産官学連携事業

#### 産官学連携事業8 岐阜市役所 市庁舎 授乳室の壁画制作 (第2期)

担 当 者：生活デザイン学科 准教授 奥村 和則  
准教授 小川 直茂  
専任講師 坂本 牧葉  
助手 深尾 茉里

実施期間：令和3年12月10日(金)～令和4年2月22日(火)

参加者数：生活デザイン学科ヴィジュアル専修 1年生 13名

昨年度に引き続き、岐阜市役所新庁舎授乳室のペインティングプロジェクト(壁画制作)に取り組んだ。今年度は、2階の授乳室2室を制作対象とした。

1階授乳室のデザインコンセプトを踏襲し、岐阜の山川を象徴的にあらわしたラインアートと岐阜にゆかりのある動植物のシルエットイラストレーションをパステル調の柔らかいトーンで描いた。令和4年2月に、ヴィジュアル専修の教員4名と学生13名の制作体制で下描き/彩色作業に取り組み、令和4年2月22日(火)に制作が完了した。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 3) 産官学連携事業

#### 産官学連携事業9 令和3年度 清流の国ぎふブライダル協議会のロゴマークのデザインコンテスト

担当者：生活デザイン学科 教授 福村 愛美、  
准教授 太田 幸一

主催：清流の国ぎふブライダル協議会

開催日時：令和3年12月1日（水）～ 令4年2月16日（水）

会場：サン・ワード株式会社

参加者数：2名

2021年10月1日に岐阜県下18企業29会場のブライダル企業とホテルが加盟する「清流の国ぎふブライダル協議会」が設立・発足された。協議会のシンボルとして、ブライダルのPRに繋げると共に、「ぎふ」で結婚式を挙げる人々に親しまれる様なロゴマークの募集が行われた。

（清流の国ぎふブライダル協議会の目的）

- ・生まれ育った地で結婚式をする魅力を発信
- ・業界雇用の創出と女性が活躍する労働環境を構築
- ・結婚・結婚式・披露宴の魅力を次世代に継承
- ・新スタイルの結婚式や多様性に対応し。新たな結婚式を創造
- ・官・学連携を深め、少子化対策や社会貢献に寄与

この募集に対して生活デザイン学科1年生2名が応募した。応募者の中からFD専修1年生の市川詩月のロゴマークのデザインが採用された。さらに打ち合わせを重ねた上で完成されたロゴマークはホームページで発表され関連各社で使用される予定である。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 3) 産官学連携事業

#### 産官学連携事業 10

#### 令和3年度 モレラ岐阜のユニフォームロゴのデザイン提案

担当者：生活デザイン学科 教授 福村 愛美、准教授 太田 幸一、  
助教 柴田佐和子、准教授 中谷 友机子

主催：モレラ岐阜

開催日時：令和3年10月1日（金）～ 令和4年2月1日（火）

会場：モレラ岐阜

参加者数：4名

岐阜県本巣市の商業施設のモレラ岐阜のシルバースタッフのユニフォームのロゴのデザインを依頼され、福村研の課題研究の1年生4名がプロジェクト事業に参加した。本学で、数回の合同ミーティング、ロゴのデザインに関する打合せを経てロゴが共同製作され、モレラ岐阜の製作スタッフによりユニフォーム製作が行われた。最終作品は、令和4年2月1日にお披露目された。お披露目会には畑中学長にも参加していただいた。取材は中日新聞、岐阜新聞、ケーブルテレビ2社に取材を受けた。中日新聞は翌日に掲載され岐阜新聞も後日掲載された。ケーブルテレビも数回放送された。スタッフには大変好評であるとのことであった。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 3) 産官学連携事業

#### 産官学連携事業 1 1 岐阜県花き振興企画コンペティションへの参加

担 当 者：生活デザイン学科 専任講師 臼井 直之  
建築・インテリア専修 2年生 5名

主 催：岐阜県農政部、ぎふ花と緑の進行コンソーシアム

開催日時：令和3年10月15日（金）

会 場：ホテルパーク

参加者数：5名

「令和三年度岐阜県花き進行振興コンペティション」は、岐阜県およびぎふ花と緑の振興コンソーシアムが主催し、花や緑のある豊かな生活の提案に向けたアイデアを募集したものである。

応募総数は30件であり、審査は提案書審査（1次審査）を通過した10組によるプレゼンテーション（2次審査、会場はホテルパーク「鶴の間」）を経て行われた。その結果、生活デザイン学科臼井研究室の5名からなるグループは、理事長賞を受賞した。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 3) 産官学連携事業

#### 産官学連携事業 1 2 ウォールアートの制作

担 当 者：生活デザイン学科 専任講師 臼井 直之

主 催：株式会社坂口捺染

開催日時：令和3年10月27日（水）～ 令和4年3月4日（金）

会 場：株式会社坂口捺染

参加者数：9名

岐阜市西郷地区に拠点を置く株式会社坂口捺染は、子供達の放課後の学びの場を提供する新たな事業を始めた。特別支援学校やこども園を巻き込みながら、西郷地区の地域起こしをしようと奮闘している。その流れの中で、自社工場の景観を、明るく地域に愛されるものとしたいと相談を受けた。

建築・インテリア専修の9名が議論しながら原画を作成した。そして、それを数日間かけて工場の外壁に描いた。完成後は、地域の人の写真スポットとなっているほか、子供達が身長を測る、絵の中に隠れた動物を探す、といった遊べる壁となっている。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 3) 産官学連携事業

#### 産官学連携事業 13

#### 無印良品、岐阜県農政部、JA ぎふとのワークショップ

担 当 者：生活デザイン学科 専任講師 臼井 直之  
建築・インテリア専修2年生6名

主 催：株式会社良品計画、岐阜県農政部、全農ぎふ、岐阜市立女子短期大学臼井研究室

開催日時：令和4年2月16日（水）、令和4年3月13日（日）

会 場：カラフルタウン岐阜

参加者数：来場者合計約40人

無印良品カラフルタウン店、岐阜県農政部園芸振興課、全農ぎふ、岐阜市立女子短期大学臼井研究室が、花き振興と地域の人とのつながりの強化を目指して行なった事業である。

本学の学生は、無印良品の商品と花きとを組み合わせた商品の提案と、それらの空間展示の提案、および市民向けワークショップを行なった。

行政、民間企業との打ち合わせや、市民向けワークショップの経験は、学生たちにとっても貴重な学びの機会となった。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 4) 高大連携事業

#### 高大連携事業 1 「中国文化論」

主 催：国際文化学科

開催日時：令和3年4月12日（月）～7月26日（月）14：40～16：10

会 場：岐阜市立女子短期大学

受講者数：51名（国際文化学科1年生32名、岐阜市立岐阜商業高校19名）

この講義は中国の少数民族、食文化、茶文化、大衆文化などの側面から中国を観察し、中国式的考え方、中国の文化に触れてもらうことを目的としている。中国には漢民族以外に55の少数民族があり、それぞれの民族は独自の文化や習慣を持っている。

この科目は、岐阜市立岐阜商業高校との連携授業で、同校から19名の生徒が教員1名の引率で本学へ来学し、国際文化学科1年生と共に受講した。最終回の授業アンケートによると、大学生からは「高校生と一緒に授業をうけるのがとてもいい経験」、「高校生の積極的な姿勢や、高校生ならではの視点や発想が聞けて面白かったし、より理解が深まった」、「高校生は明るくより楽しい授業になった」という意見が圧倒的であり、一方、高校生からは「大学の雰囲気や授業がよくわかった」、「高校では習わないことや詳しいことを学べる」などの意見が得られ、高大連携授業に対して双方から高い評価が得られた。しかし、前年度に続きコロナの影響で、例年より教室での交流が少なかったことがとても残念であった。今後、学生と高校生がもっと交流できるよう、工夫する必要がある。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 4) 高大連携事業

#### 高大連携事業2 「初級中国語Ⅱ」合同発表会

主 催：国際文化学科

開催日時：令和4年1月13日（木）9：00～10：30

会 場：岐阜市立女子短期大学

受講者数：32名（国際文化学科1年生16名、岐阜市立岐阜商業高校18名）

令和4年1月13日、「初級中国語Ⅱ」を履修している本学国際文化学科1年生Aクラスの学生と、岐阜市立岐阜商業高校経営管理科2年生の生徒が、中国語合同発表会を行った。発表内容は事前に大学生と高校生に知らせ、暗記してもらった。発表は一人2分以内で、高校生も大学生も発表を積極的に準備し、熱心に参加していた。

発表後のアンケート調査では、良かった点として「勉強してきたことを共有することができてよかった」、「自分よりうまい人がたくさんいて、刺激になった、もっと勉強したいと思った」、「他の人の発表を聞き取ることができた」、「いつもより緊張感をもった発表会になった」などが挙げられていた。

改善点としては「もっと交流がしたい」、「もっと少人数のグループに分けて発表するとアドバイスなどもしやすい」、「合同発表だけではなく、授業も一緒に受けて交流したらいいと思う」といったさらなる交流を求める意見が多く挙げられていた。



## Ⅱ 連携・交流事業

### 4) 高大連携事業

#### 高大連携事業3 「中級中国語会話Ⅱ」合同発表会

主 催：国際文化学科

開催日時：令和4年1月24日（月）14：40～16：10

会 場：岐阜市立女子短期大学

受講者数：32名（国際文化学科2年生14名、岐阜市立岐阜商業高校18名）

令和4年1月24日、「中級中国語会話Ⅱ」を履修している本学国際文化学科2年生の学生と、岐阜市立岐阜商業高校経営管理科3年生の生徒が、中国語合同発表会をオンラインで行った。発表にはパワーポイントを用い、一人でのプレゼンテーション形式やグループによる会話形式で行われた。発表後のアンケート調査では「パワーポイントによる説明があり、より発表の内容を理解することができた」、「内容が自由なので、さまざまな発表があって面白かった」などの意見が挙げられ、発表形式への評価が高かった。

今回はコロナ対策のためオンラインでの開催を試みたが、学習成果の発表という点においては対面との差を感じることなく交流手段として有効であり、今後、海外学生との交流会を企画するきっかけにもなった。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 5) 出張講座

#### 出張講座1 「ファッションワンポイント①」講座

講師名：生活デザイン学科 准教授 中谷友机子

開催日時：令和3年10月4日（月）14：00～15：10分迄

会場：中央公民館 羽島郡岐南町八剣7丁目107番地

受講者数：14名

「もっと輝く！シニアのためのファッションワンポイント講座」①をテーマに、特にシニア世代を中心に講義をさせていただきました。

講義内容としては、

- (1)カラーコーディネート的重要性について
- (2)2021～2022 秋冬ファッション情報について
- (3)マフラーの巻き方
- (4)その他、ファッションワンポイント情報

上記の内容で講義を進行しました。受講者の方々は熱心に聞き下さり、特にマフラーの巻き方では、とても勉強になったと何回も練習をされていました。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 5) 出張講座

#### 出張講座2 「ファッションワンポイント②」講座

講師名：生活デザイン学科 准教授 中谷友机子

開催日時：令和3年11月10日（水）14：00～15：10

会場：三宅町民センター 羽島郡岐南町三宅6丁目93番地

受講者数：8名

「もっと輝く！シニアのためのファッションワンポイント講座」②をテーマに、特にシニア世代を中心に講義をさせていただきました。

講義内容としては、

- (1)カラーコーディネート的重要性について
- (2)2021～2022 秋冬ファッション情報について
- (3)マフラーの巻き方
- (4)その他、ファッションワンポイント情報

上記の内容で講義を進行しました。

この講座は10月4日(月)に第1回目を実施し、今回で2回目の講座となります。2回目を終え、受講者の方々はファッションに凄く興味があるという事がわかりました。特にカラーに関しては、いつまでも若々しく居たいという願望、明るめのカラーでコーディネートをしたいという様子が理解できました。

出来るだけ綺麗なカラーでコーディネートを仕上げ、その年の流行色も把握し、少し取り入れながらファッションを楽しむ、そういう傾向が強いことも認識できました。しかし、マフラーの巻き方については、まったくご存じ無い様子でした。

マフラーの巻き方でファッションコーディネートは素敵に変容できます。受講者の方々は、様々な巻き方を何回も練習されて、コーディネートの一環として理解し、楽しんでおられました。

## Ⅱ 連携・交流事業

### 5) 出張講座

#### 出張講座3 「ファッションコーディネートテクニック／視覚からファッションを考える」講座

講師名：生活デザイン学科 准教授 中谷友机子

開催日時：令和3年7月26日（月）13:00～15:00

会場：視覚障害者生活情報センターぎふ 岐阜アソシア 3F 大会議室

受講者数：約20名

「視覚障害者生活情報センターぎふ」は、社会福祉法人「岐阜アソシア」が運営する施設です。視覚障害者とともに生きる社会を実現するために、様々な生活情報の提供を行われています。今回は、視覚障害者の方々に「ファッションコーディネートテクニック／視覚からファッションを考える」をテーマに、ファッションコーディネートに関わるテキスタイルの見極め方、特徴、知識などを講義させていただきました。その後、ニードルフェルト技法で、ウール地に羊毛を付着させ、オリジナルな羊毛柄の膝掛けを制作して頂きました。

テキスタイルの見極め方としては、約20種類の素材を集め、各素材に触って確認して頂きました。それらの素材が春夏秋冬の何シーズンに適しているのか、各素材の特徴・知識を説明させて頂き、ファッション・アパレルにとって素材の重要性、さらに、素材とコーディネートの関わりなどを説明いたしました。視覚障害者の方々は、とてもお洒落な方が多く、目では見えてないですが、素材の知識はよくご存じで驚きました。やはり（素材）触れるという確認行動が、知識を豊かにされていることに認識できました。

オリジナルな柄の膝掛け制作としては、各視覚障害者の方に介助者がおられ、お二人共同で制作されました。とても熱心に制作されて素敵な作品が完成しました。視覚障害者の方々は、完成作品に満足されて、前向きな方々ばかりでした。

この講座を機会に今後も本学の地域貢献として活動していきたいと考えます。